

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 20 章 24～31 節>

①トマスは見たから信じたのか？

他の弟子たちは復活の主と出会ってイエス様が復活されたことを信じましたが、その場に居合わせなかったトマスはその話を聞いても信じませんでした。そのトマスに主が現れられ、彼も信じるようになりました。これを読むと、トマスも復活された主を見たから信じた、と考えがちです。果たしてそうでしょうか？ 確かに主は彼が信じられるようになるために現れられたのでしょうか。しかし、主はトマスに向かって「私を見たから信じたのか」と言われました。この言葉から、イエス様は「見ないと信じられない」とは思われていないことが分かります。

②「信じよ」と差し出されたものは、私たちの想像を遥かに越えた恵み！

ヨハネによる福音書の大事なテーマの一つは、信仰における「見ること」です。1章にはイエス様の次のような言葉が出て来ます。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたがたは見ることになる」(1:50)。この言葉で考えさせられます、私たちが「見たら信じる」と言う時の内容がそもそも小さいのではないか、神様が「見せる、信じなさい」と言われている内容は、私たちの知識や経験から類推できるものを越えた、もっと大きなものではないか、と。そんなものが私たちに分かるのでしょうか？ 分かります。神様が御子を十字架につけ、復活させられた出来事に込めて下さった驚くべき恵みの意味を、神様が与えて下さった聖書から考えていくときに分からせていただけるのです！ 「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ち溢れています。それは、あなたがたが信仰の實りとして魂の救いを受けているからです」(ペトロの手紙 I 1:8-9)。

「見ないで信じる人は幸いなり」(29)は、つべこべ理屈を言わず信じなさい、と言われているものではありません。聖書の教えを、自分勝手にではなく、そのために神様が備えて下さった教会で真剣に聞いてみなさい、そうすれば神様の恵みが分かり、慰めと励ましが与えられ、この神様と共に生きようと思うように導かれるから、と言われているのです！